

東洋医学を 看護に生かす

鍼灸の思想で西と東を結ぼう

いわゆる「西洋医学」中心であった時代、病院において漢方や鍼灸など東洋医学が顧みられることは滅多にありませんでした。が、現在はその効用も認識されて保険においても点数評価されるようになり、医療の世界でも大きな位置を占めることとなっています。

では、看護の世界においてはどうでしょう？ 東洋医学を専門とする医師がそばにいたり、看護師自身が東洋医学の恩恵を受けていたりすることを除いては、まだまだ直接的なかわりがあるとは言えないのではないのでしょうか？

今回の特集は、医療界において東洋医学、特に鍼灸に取り組んでいる現場の声を紹介すると同時に、その活動が看護にどのような影響を与え、あるいは与えられしている状況を一般看護師にも知っていただき、患者さんに最も近い医療職である看護師が、今後それをどう生かしていくかのヒントにしていただこうと組まれたものです。

「触れる」ことを大事にする看護において、東洋医学は必ず強い味方になるはずです。

東洋医学が看護にもたらすもの その思想の概要 ● 602 ページ

東洋医学の“からだ”観は、心身を 1 つのものとして捉え、それをただの概念ではなく、実際の診察や治療に生かしていることが特徴です。鍼灸も含めて、自然治癒力と「触れること」の意義を重要視した東洋医学の概念そのものについて、看護との関連から述べます。

看護師と鍼灸 自らと患者さんのために ● 610 ページ

病棟で医師や看護師とともに鍼灸師が患者の治療にあたる病院において、東洋医学に対する看護職の意識を高め、協力して治療に当たる方向を探ることの意義を、管理者の視点から、また自ら鍼灸の恩恵に与った立場から述べます。

西と東の会う現場で 看護師の立場から ● 614 ページ

ごく普通の看護師として就職した場で鍼灸師と協働するようになった看護師が、ともに学び、ともに治療にあたる同僚としての鍼灸師を語り、また、看護師が東洋医学を学ぶことによって得られることについても述べます。

西と東の会う現場で 鍼灸師の立場から ● 617 ページ

従来は大きな病院の病棟で患者さんの治療にあたったり、他の医療職と協働することの滅多にない鍼灸師が、独特の環境の中で働き、医療チームとして機能することを目指し、日々の仕事のなかで出会った看護の重要性和協働の必要性について述べます。
